

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

『光 あふれる 西柴 ～ふれ合い まなび合い とともに輝く子～』  
 ○自分らしさを発揮し、豊かな感性を育み、自分の思いや考えを伸び伸び表現できる子を育てます。【知・開】  
 ○豊かなかかわりの中で、自分を大切に、互いの生き方を認めていく子を育てます。【徳】  
 ○健康やかな心と体を育み、自分や人の命と体を大切にすることを育てます。【体】  
 ○人や自然、地域を大切に、思いやりをもてる子を育てます。【公】

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

＜自分づくりに関する力＞  
 ＜協働して課題解決する力＞

#### 具体化した資質・能力

仲間とともに思いを実現化させようとする意欲  
 自分のよさへの気付き 自分から考えを発信する意欲  
 安全に行動する能力 積極的に体を動かそうとする姿勢

#### 中期取組目標

○自分の良さを発揮し、向上心をもって努力する意欲をもたせます。  
 ・3年間を通して、失敗を恐れず、自分の考えを積極的に発信しようとする意欲がもてるよう指導します。  
 ○自他を大切に、互いに支え合い、高め合う学習を充実させます。  
 ・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感・自己肯定感をもち、楽しく学校生活が送れるようになります。  
 ○他者や多様な文化を認められるようになります。  
 ・「誰にでも挨拶をする」「相手の気持ちを考える」など、様々な立場に立つて物事を考えようとする姿勢を育てます。

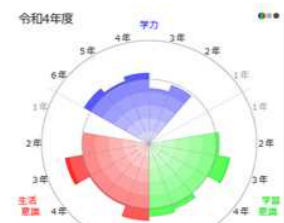
### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①各単元や各授業の中で、子どもたちが主体的・対話的に資質・能力の獲得に向かっていけるような仕掛けの工夫を考える。②重点研究テーマを「ふれ合い まなび合い」とともに輝く子を意識した授業づくり」とし情報活用能力を生かして、自分の思いを表現したり伝え合ったりする子の育成をめざす。
担当	研究部

#### 学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態  
 ※横浜市学力・学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果に基づく、児童生徒の学力の状況  
 ※日々の学習評価に基づく、児童生徒の学力の状況  
 ※実態把握に関わる客観的なデータを可能な限り貼付する

(横浜市学力・学習状況調査 生活・学習意識調査 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙 学校独自のアンケート等)



(2) 重点研究：令和3、4、5年度 情報教育  
 令和2年度 英語科、英語活動  
 令和1年度 教育課程作成  
 (総合・道徳・英語を中心に)  
 道徳教育推進校  
 平成30年度 算数  
 平成29年度 算数  
 ○算数における少人数学習(4年生以上)

#### 今年度の目標

①児童一人ひとりが課題をしっかりと把握し、基礎基本の定着をめざすとともに、主体的に・協働的に考えることができる授業作りを各教科工夫して行う。②重点研究では、学校教育目標にたつて、育てたい子ども像を意識した情報教育について研究を行う。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>○各単元や各授業の中で、子どもたちが主体的・対話的に資質・能力の獲得に向かっていけるような仕掛けの工夫を考える。</p> <p>①学校の特色を生かすことができるようカリキュラムの精選を行いPDCAサイクルを回していけるようにする。</p> <p>②個別支援教育の充実を目指す。困り感のある児童に個別に対応していけるような工夫を考える。(取り出し、国際教室、クラスでの授業の中で)</p> <p>○本校の育てたい子どもの姿「自己肯定感を高めていく」、「自分の思いを表現したり、伝え合ったりする」を実現するために、正確な評価をし、日常的に子どもたちに自分の成長を実感させる。また個人面談を通して保護者にも子どもの成長を確実に伝える。</p> <p>○重点研の取り組みから</p> <p>①低・中・高の発達段階に合わせたICT機器の活用方法や、既習の学習を生かした授業の工夫等を部会や全体で取り上げて話し合うようにする。</p> <p>②研究の充実を図ったり、指導の系統性をもたたりするために、指導案・ワークシート・参考とした資料等の記録を学年ごとに残していく。</p>	<p>○各単元や各授業の中で、子どもたちが主体的・対話的に資質・能力の獲得に向かっていけるような仕掛けの工夫を考える。</p> <p>①学校の特色を生かすことができるようカリキュラムの精選を行いPDCAサイクルを回していけるようにする。</p> <p>②個別支援教育の充実を目指す。困り感のある児童に個別に対応していけるような工夫を考える。(取り出し、国際教室、クラスでの授業の中で)</p> <p>○本校の育てたい子どもの姿「自己肯定感を高めていく」、「自分の思いを表現したり、伝え合ったりする」を実現するために、正確な評価をし、日常的に子どもたちに自分の成長を実感させる。また個人面談を通して保護者にも子どもの成長を確実に伝える。</p> <p>○重点研の取り組みから</p> <p>①低・中・高の発達段階に合わせたICT機器の活用方法や、既習の学習を生かした授業の工夫等を部会や全体で取り上げて話し合うようにする。</p> <p>②研究の充実を図ったり、指導の系統性をもたたりするために、指導案・ワークシート・参考とした資料等の記録を学年ごとに残していく。</p>

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①豊かなかかわりの中で、自分を大切に、互いの生き方を認めていく子を育てるため、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。②道徳科年間指導計画に沿った、全学級の道徳科授業公開を年一回以上実施する。③自分の思いを書いたり、話したりする活動の中で自分自身を見つめたり、なりたい自分をイメージしたりすることができるようにする。
担当	道徳部

#### 豊かな心に関わる本校の状況

新興住宅地の中に位置する本校は、近くに歴史的な遺産名寺や海の公園など、周囲の自然環境にも恵まれている。地域の人々からも温かい支援が寄せられ、子どもたちも素直で伸びのびと生活し、友達関係も穏やかである。しかし、繊細で傷つきやすい面もあり、自己肯定感がやや低い傾向にある。

(1)「道徳科の時間」の充実  
 ・全学級の道徳授業公開を年一回以上実施する。  
 ・道徳的価値の自覚と自己の生き方について考えを深めるきっかけとなるよう、道徳科の授業を充実させる。

(2)人権・福祉に関する取組  
 ・委員会活動を中心に、ユニセフ募金への協力呼びかけやあいさつ運動などの福祉活動を行う。  
 ・人権感覚を高めていくため、人権目標をクラスごとに作成して日常的に意識して過ごせるようにする。  
 ・委員会活動や縦割り活動、学級指導などの中であいさつなどの意識を高め、ひとつつながる事の良さを感じる。

#### 今年度の目標

共感する力を育て、考える力を大切にする授業の実践に取り組み、自己肯定感を高め、他人を尊重する心情を学校生活の中で育てていく。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>①子どもの実態をもとに、本校独自に編成した年間カリキュラムにそって、全学級の道徳授業公開を年一回以上実施する。</p> <p>②人権感覚を高めていくため、学級目標の中に、人のかかわりを含めた内容を入れ、定期的なふり返りを行うことで人権感覚と意識の定着を図る。</p> <p>③子ども一人ひとりを大切にしながら、まちとともに歩む学校をつくる。</p> <p>・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現力を育みながら学力を向上させる。</p> <p>・一人ひとりが自己肯定感をもち、楽しく学校生活を送れるようにする。</p> <p>・健康な心身を作るための生活習慣が形成できるようにする。</p> <p>・まちの「人」とのつながりを大切に、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てる。</p>	<p>①子どもの実態をもとに、本校独自に編成した年間カリキュラムにそって、全学級の道徳授業公開を年一回以上実施する。</p> <p>②人権感覚を高めていくため、学級目標の中に、人のかかわりを含めた内容を入れ、定期的なふり返りを行うことで人権感覚と意識の定着を図る。</p> <p>③子ども一人ひとりを大切にしながら、まちとともに歩む学校をつくる。</p> <p>・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現力を育みながら学力を向上させる。</p> <p>・一人ひとりが自己肯定感をもち、楽しく学校生活を送れるようにする。</p> <p>・健康な心身を作るための生活習慣が形成できるようにする。</p> <p>・まちの「人」とのつながりを大切に、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てる。</p>

### 健康やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①早寝・早起きの励行、朝食を食べたり、適度な運動をしったりする等の健康的な生活習慣を身につける実践力を育てる。→養護教諭・栄養士・家庭科専科との連携を図る。 ②「ともキョ班遊び」を通して外遊びや運動の推進を図ることで、健康やかな心と体を育み、楽しく体を動かし、たくましく生活できる力を育てる。
担当	体育部

#### 健康やかな体に関わる本校の状況

(1)健康やかな体に関わる児童生徒の実態  
 体育科基本調査(横浜市で全児童に毎年調査)では、学年が上がるにつれ子どもは友達と教え合いながら学習に取り組み、繰り返し練習することで、もっと体育学習が楽しくなると感じているという結果が出た。このことから、学年が上がるにしたがって、友達との関わり、より目が向いてきていると考えられる。主に運動不足時に見られる「筋力」や「柔軟性」「持久力」の低下を防ぐために、低学年では、逆さになったり、腕で体を保持したり、体を振ったり回ったりする感覚や動きを、走る運動遊びを通して十分に経験させるとともに、動きを身に付けたり、広げたり、深めたりした子どもを教師が積極的に褒め、達成感を味わわせながら取り組ませるようにしたい。中・高学年では、慣れの運動をしっかりと行い、運動に必要な感覚や動きを身に付けさせるとともに、技ができるようになるための活動に段階的に取り組めるようにしたい。新型コロナウイルス感染症により、不安やストレスが大きくなっている。

(2)これまでの学校の取組状況  
 学校保健委員会で、子どもたちが自分の状況を把握し、より主体的、総合的な取組を進めることができるようになると、結果として感染予防や体力の向上、心のケアに結び付けていくものと考え、「元氣100倍大作戦!めざせ体力アップ!!」や「元氣100倍大作戦!いやしを増やして心元氣に!!」を取組み、心から元氣になれるように継続してきた。体力の向上の取組には、家庭の協力も不可欠である。バランスのとれた食生活や規則正しい生活、適度な運動習慣にふれさせることなど、学校からも保健だよりや給食だよりなどで積極的に呼びかけたい。

#### 今年度の目標

共に楽しく体を動かし健康やかな体が育てる。  
 元気で明るく生活できる健康やかな心を育む。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>子どもが主体的に学びに向かい、教師や友達と関わり合いながら展開する授業を目指す。児童が運動の楽しさや喜びを実感し、運動の日常化につなげられるよう体育科学習の充実を図る。児童会活動(縦割り活動)を通して楽しく体を動かす。</p> <p>(具体的な取り組みの予定)</p> <p>・「健康手帳」を活用して体育健康に関する情報を家庭と共有する。</p> <p>・夏休みを利用して「早寝・早起き、朝食を食べる」を家庭において継続させる。</p> <p>・学校保健委員会において、「元氣アップ大作戦!」～けがを減らして健康で笑顔あふれる西柴小にしよう～とし、けがをしにくい体づくりの体験をスポーツ指導員からご指導いただき、家庭でもできるように健康の保持増進に関する取組の推進をする。</p>	<p>子どもが主体的に学びに向かい、教師や友達と関わり合いながら展開する授業を目指す。児童が運動の楽しさや喜びを実感し、運動の日常化につなげられるよう体育科学習の充実を図る。児童会活動(縦割り活動)を通して楽しく体を動かす。</p> <p>(具体的な取り組みの予定)</p> <p>・運動会を通して、学校全体や学年で同じめあてを意識して、みんなで楽しく体を動かす喜びを感じられるようにする。</p> <p>・【とべとべフレンドパーク】年一回、全校なわとび大会を開催する。縦割りグループで8の字とびを3分間で何回跳べるか目標を決めて、練習に取り組めるように支援する。大会では各グループで練習してきた成果が発揮し最高記録が出るように取り組む。</p> <p>・学校保健委員会において、「元氣アップ大作戦!」～けがを減らして健康で笑顔あふれる西柴小にしよう～けがを編～を各学級での取組を具体化して、行う。</p>